

「自然体験活動指教員養成研修会」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
15	24	24	全日程参加13（男10女3） 一日目のみ6（男3女3）二日目のみ5（男1女4）

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・学校の実施する自然体験活動」において、教育効果の高い自然体験・生活体験の機会を提供するためにプログラム計画立案の助言、活動時の全体指導や活動の様子の把握と助言、事業評価の助言等を行う指導者を養成する。
- ・自然体験活動指導に必要な知識他技能、および研修会のノウハウについて公立施設等に発信していく。

◆期日・期間

2013年 7月31日（水）～ 2013年 8月1日（木） 1泊 2日

◆後援・協力団体

小浜市教育委員会（連携）、
若狭三方縄文博物館（協力）、福井県立三方青年の家（協力）

◆参加者分析

- ・企画・運営担当として、小浜市教委の認定する「授業名人」の教諭6名、当日の研修参加者として24名で実施した。小浜市内の小中各校から1名以上の出席があった。男女比、年齢も各層が均等であった。

荒天のため、堅穴住居での宿泊体験を中止し、いったん解散した。

◆ 企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
7月31日（水）	受 付	開 講 式	オリエンテーション	講義・演習 「縄文のロマンを学ぶ」 【勾玉作り】 【博物館見学】	昼食・休憩	実習 「三方五湖の食を学ぶ」 「縄文の住生活」 【縄文丸木舟体験】 【火起こし体験】 【野外炊事】	休憩	情報交換 自由講座 「星空観察の指導法」 「学校における自然体験」 【夏の星座観察】 【エビすき漁体験】	就 寝							
8月1日（木）	起床 朝食 など	野 営 撤 収	演習 「縄文クラフトの製作と指導法」 【縄文土器製作】	閉 講 式 散 散												

再度集合し、朝食からプログラムを再開した。

講師

- 「縄文のロマンを学ぶ」 若狭三方縄文博物館 学芸員 小島秀彰
 「縄文の住生活」 若狭三方縄文博物館 武田信幸・増井真一
 「三方五湖の食を学ぶ」 福井県立三方青年の家 主任 中塚一成
 「星空観察の指導法」 福井県立三方青年の家 主任 中塚一成
 「学校における自然体験」 国立若狭湾青少年自然の家
 主任企画指導専門職 井上誠一郎
 企画指導専門職 松下泰山
 「縄文クラフトの製作と指導法」 若狭町縄文環境室 室長 青池晴彦

プログラム検討会

- 1回目 5月23日(木) 17:00～ 小浜市立遠敷小学校学習室 (事前企画)
 2回目 6月27日(木) 17:00～ 小浜市中央公民館1F研修室 (")
 3回目 7月23日(火) 15:00～ 小浜市中央公民館1F研修室 (")
 4回目 8月28日(水) 15:30～ 小浜市役所4F大会議室 (事後評価)

◆運営のポイント

- ・5月より毎月1回、計3回のプログラム検討会を実施し、参加者が主体的に計画を立案した。各コマの内容に加え、コマとコマのつながりも意識したシーケンスを大事にしながら2日間のプログラムを策定することができた。
- ・参加者に運営側の視点を学んでもらうために、まず参加者自身に考えてもらいながら、最低限必要な助言をする形態をとったが、概ね好評であった。

◆安全管理のポイント

- ・夜の天候判断で宿泊を中止し、翌朝に再集合してプログラムを再開した。天候判断も運営者として必要な技能であり、中止プロセスや代替プログラムの導入を「学ぶ場」としてのチャンスであったが、これを十分に生かせなかった事は大きな反省点である。
- ・復元丸木舟体験、エビすき漁体験の水辺活動では、入念な下見と実施時の適切な人員配置で安全に留意した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	56%	44%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	67%	33%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	56%	44%	0%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

- ・2日間、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。今回研修した内容を今後の教育活動に是非、生かしていきたいと思っております。お世話になりました。
- ・体験活動は苦手であったが、楽しく活動できた。子どもにもさせてみたいと思った。お世話になりました。
- ・火おこし体験で、火がついたときの喜びが大きかったです。苦勞してつけた火で野外炊飯をするという設定が大変良かったと思っております。無理のない時間の設定が縄文体験という設

定にも合っていたように思います。ただ、俗世間から離れるという面では、場所の関係上少し物足りなかったように感じました。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・参加者に運営側の視点を学んでもらうために、まず参加者自身に考えてもらいながら、最低限必要な助言をする形態をとったが、概ね好評であった。
- ・縄文博物館、三方青年の家とは近隣5施設連携事業での連携実績はあるが、さらに新たな形態での連携が可能となった。
- ・参加者アンケートからは、今回のプログラムの積極的な活用可能性に関する言及が見られた。また、個々のアクティビティについても機会を見て実施をしたいという記述が見られた。

(2) 課題

- ・参加者には、「参加者の視点」と学校での引率時を念頭に置いた「運営者の視点」を併せ持ってもらいながら2日間のプログラムを実施した。参加者による趣旨の理解度の差により、目標への到達度に大きなばらつきが見られた。目標を達成できなかった参加者の属性を精査すると「義務的参加」を所属から強要されたものが少なからず認められたため、告知方法の改善が求められる。
- ・(再掲)夜の天候判断で宿泊を中止し、翌朝に再集合してプログラムを再開した。天候判断も運営者として必要な技能であり、中止プロセスや代替プログラムの導入を「学ぶ場」としてのチャンスであったが、これを十分に生かせなかった事は大きな反省点である。

5. 活動の様子



竪穴住居の前で	年稿の実物	復元丸木舟体験
縄文土器で調理	野外炊事の前の火起こし	
野外炊事	縄文土器作り	土器の野焼き

